

（様式１）実施報告書

1 応募者情報

（１）応募者団体情報

団体名	一般財団法人静岡市国際交流協会
-----	-----------------

（２）都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 ☒ 有・無

○指定の内容

以下の事業は、一般財団法人静岡市国際交流協会が行っており、「静岡市多文化共生推進計画」にも盛り込まれている。なお、国の補助金を除く事業費については市からの補助を受けている。

【事業名】

- ・ 基本的な日本語の読み書きの習得を目的とする日本語講座の実施
- ・ ICT を活用した日本語講座の実施
- ・ 地域日本語教育に係る総合調整会議の実施
- ・ 日本語ボランティアの養成
- ・ 地域日本語教育団体の支援

【参考】

静岡市多文化共生推進計画「関連事業」について

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/2702/000978567.pdf>

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

- ・ 「事業の中核メンバー」として、静岡市国際交流課職員が参画している。
- ・ 「総合調整会議」の構成員として、静岡市国際交流課及び学校教育課職員が参画している。
- ・ 一般財団法人静岡市国際交流協会の事業は、静岡市からの補助金により運営しており、本事業についても静岡市と協働して企画しているものである。

2 事業の概要

（１）全体概要

①事業の名称	静岡型「多文化共生のまち」実現のための地域日本語学習推進事業
②目的等	
1 目的	静岡市の外国人住民が、日本語を使って、健康かつ安全に自立した生活を送り、また地域や社会の中で孤

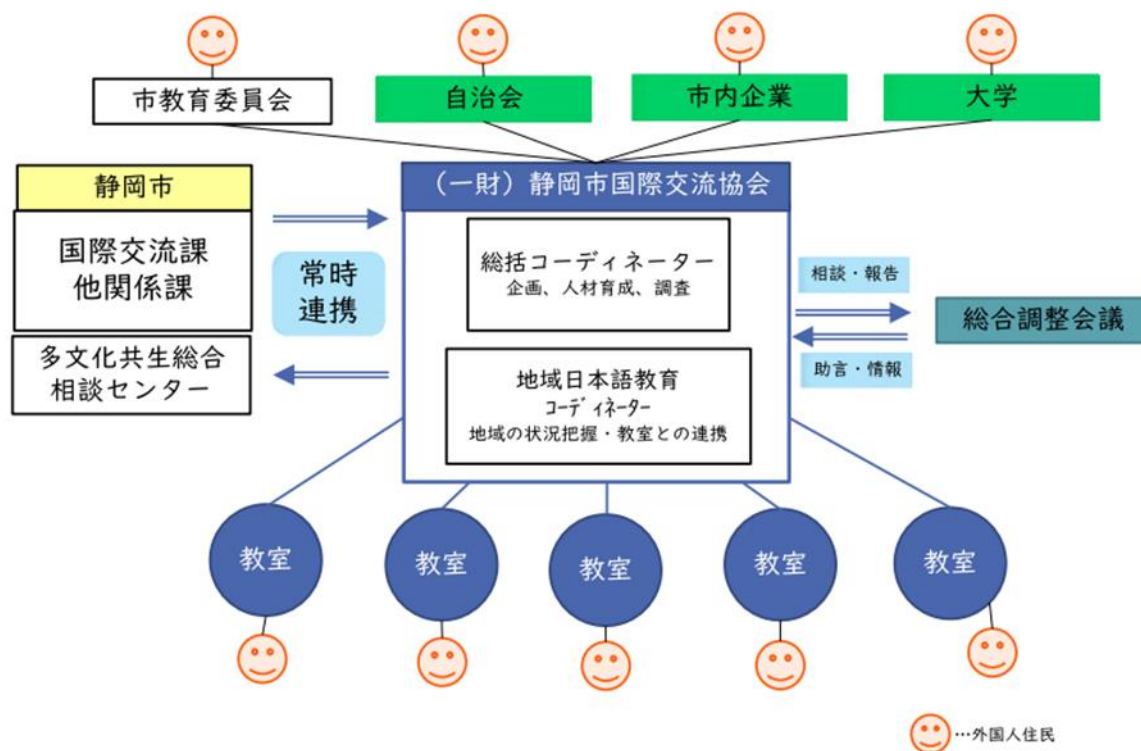
立することなく、社会の一員として活躍できるように日本語学習環境を整備する。

上記の目標を達成するために、多種多様な日本語教育の実施、拡充、日本語教育を担う人材の育成、産学官の関係者、関係団体との連携強化や意見調整を行う。

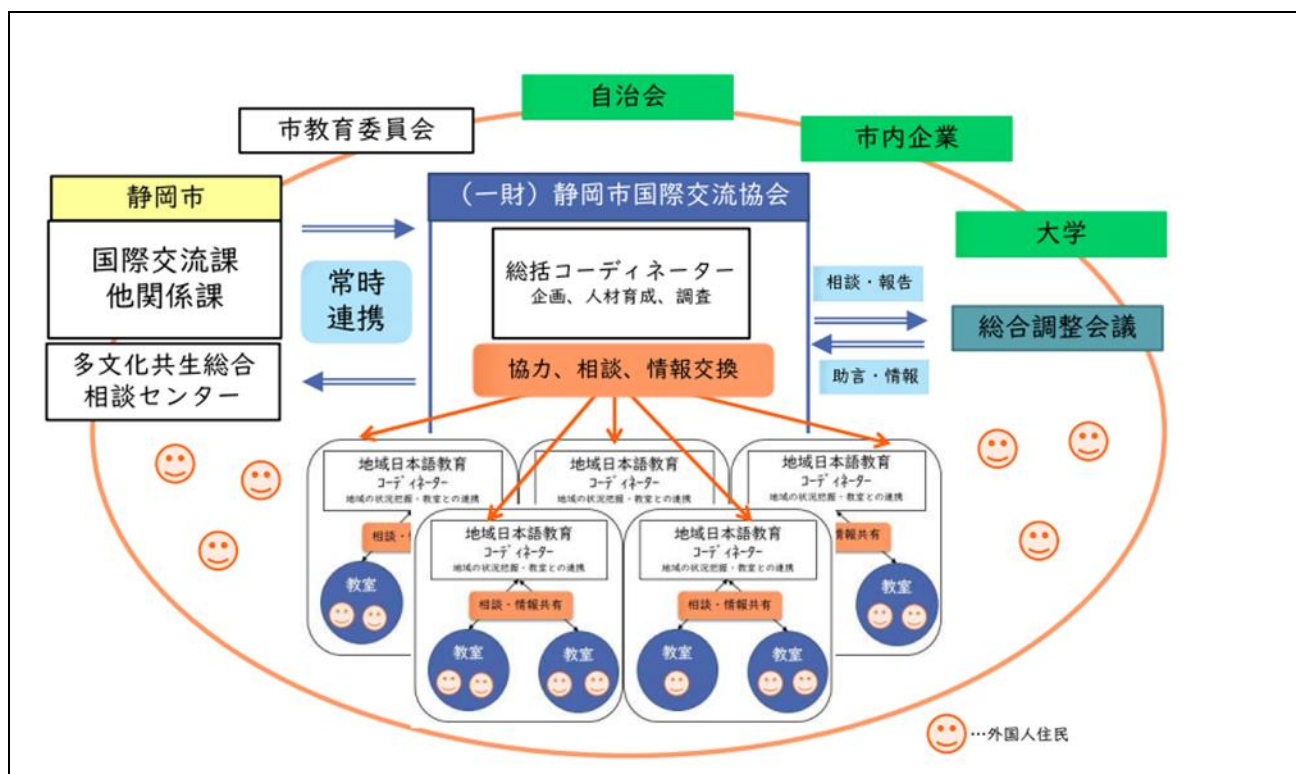
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像

【現在の状況：図示も可】

現状は、それぞれの関係機関及び関係者が点と点を線で結ぶように、それぞれが外国人住民にアプローチしている。



【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】



(2) 令和5年度事業の概要

①事業の期間	令和5年 4月 1日～令和6年 3月 31日 (12カ月間)
②前年度までの年次計画における進捗状況 (新規応募団体は記載不要)	・総括コーディネーターを1名、地域日本語教育コーディネーターを2名配置した。地域日本語教育コーディネーターのうち1名は新たに増員した。 ・総合調整会議を2回実施した。総合調整会議では、共生社会実現のために日本語教室で何ができるか、担い手をどのように確保するかについて、具体的な内容について議論した。 ・外国人コミュニケーションボランティア講座を実施し、39名が参加、そのうち半数の18名が新たに当協会の日本語教室で活動するボランティアである日本語サポーターとして登録した。 ・前年度作成したオリジナル教材『はなそう にほんご しぞーかで』の使い方を学ぶ、日本語サポーター登録更新研修を実施し、地域の日本語教室で活動するボランティアを含む15名が修了した。地域の日本語教室でもオリジナル教材を使った活動が始まるなど、「生活者としての外国人」のための日本語教育が浸透しつつある。 ・SAME にほんごきょうしつでは、昨年度まで新型コロナウイルス感染症の影響で対面での活動を控えていた日本語サポーターと学習者と対面で交流しながら学習できるよう、実施方法やカリキュラムを見直し、年間を通じて65回、対面で日本語教室を運営した。 ・令和2年度課題であった、学習者及び日本語サポーターの定着率が90%に改善された。 ・令和3年度作成したオリジナル教材のCan-do statementsを8言語で翻訳した資料や、学習に役立つ、数字の読み方、家族の呼び方などの資料を含めた別冊付録を作成した。 ・全体をとおして、概ね予定どおり進めることができた。

③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）

- ・地域日本語教育コーディネーターを1名増員した。地域における日本語教育の量と質の確保のため、地域日本語教育コーディネーターをさらに増員する必要があるが、広い視野を持ち、様々な課題に対応できる人材の確保は難しい。
- ・コロナ禍以降、初めて、全ての日本語教室に日本語サポーターが対面で参加し、日本人住民と外国人住民が協働する場を設けることができた。
- ・令和2、3年度に作成したオリジナル教材『はなそう にほんご しぞーかで』を用いて、日本語サポーターが教室活動に参加できるよう、カリキュラムの作成と見直し、実証を繰り返し、教室運営体制を構築した。
- ・オリジナル教材『はなそう にほんご しぞーかで』を用いて市民が日本語教室に参加できるよう、研修を実施し、日本語教育人材を養成した。地域の日本語教室で活動するボランティアも参加し、教材が地域にも浸透し始めた。
- ・前年度、多くのニーズが寄せられた主婦や子育て世代の外国人のため、平日午前の日本語教室を新設した。
- ・日本語教育人材を養成するため、外国人コミュニケーションボランティア講座と日本語サポーター登録更新研修を実施し、計54名が参加した。
- ・前年度5月、12名だった日本語サポーターは、3倍近い34名に増加した。
- ・日本語サポーター登録者数は増えても、教室1回あたりの参加人数は不安定であるため、学習者の受け入れ人数に制限をしている状態である。引き続き、日本語サポーターの安定的確保と参加しやすい仕組みづくりを検討する必要がある。
- ・前年度、当協会が静岡市から委託している、静岡市多文化共生総合相談センターにて、学齢期を超えて来日する15歳以上の子どもたちの日本語学習についての相談が急激に増加した。年齢超過のため市内の中学校に編入することもできず、高校受験に対応できる日本語能力も備わっていないため、学校に所属することができない。彼らに最適な学習環境を提供するため、関係各所に掛け合い、繋ぎ先を数か所確保することはできた。今後の将来を左右する世代の彼・彼女らに対して、対応が急がれる。

④令和5年度の目標

- ・地域日本語教育コーディネーターの配置
日本語教育の量、質の確保のため、地域日本語教育コーディネーターの増員が急がれる。人材の発掘、養成を行う。候補者を文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」に推薦する。
- ・総合調整会議の実施
総合調整会議では、本事業終了後も持続可能な体制を保持するため、地域での共創、地域をどのように巻き込むかについて議論する。
- ・地域日本語教育人材の養成、日本語サポーターのスキルアップ
地域日本語教育人材の不足を改善するため、安定的な確保を目指し、研修を実施する。新規人材の養成と現在活動している人材が継続的に活動できるよう知識の向上を図る。特に大学生や高校生の参加を促すため、市内の大学や高校に訪問し、ネットワークを形成し、新たな層の人材確保に努める。
- ・持続可能な日本語教室の体制づくり
今後、長期に渡って、持続可能な体制を作るため、現在の日本語教室の運営体制を確立する。これまで積み上げてきた、オリジナル教材を使ったカリキュラムを基盤に、地域の日本人と学習者が協働でき、誰もが継続して参加しやすい日本語教室の型を作る。最終年度である令和6年度は、この教室の普及を目指す。

・学齢期以降に来日する子どものための日本語教室

令和4年度、静岡市多文化共生総合相談センターでの相談対応で、明らかになった、学齢期を超えて来日する子どもたちが日本語を勉強できる場がほしいという新たなニーズに対応するため、日本語教室を新設する。この層に対する日本語教育は、丁寧できめ細やかな対応が必要になるため、これまで3年間に培ってきたネットワークをもとに関係機関と連携し、学習者に必要な情報の提供や対応を行い、地域の将来のリスクヘッジをする。

・教材の普及、活用

令和2、3年度に作成した『はなそう にほんご しぞーかで』の冊子と、令和4年度に作成予定の動画教材を連動させるため、冊子の再編集と増刷を行う。日本語教室で動画教材を効果的に活用する。また、地域への広報を行い、「生活者としての外国人」のための日本語教育の浸透を図る。

・日本語教育に関する広報活動

令和4年度に構築した、日本語学習 Web サイト『しずおかしのにほんごきょうしつ』をとおして、より多くの方に情報が届き、誰もが容易に日本語学習に関する情報を得られるよう、Web サイトの運営、情報の更新をするとともに、より多くの人に情報提供ができるよう、広報を行う。

・事業評価・改善

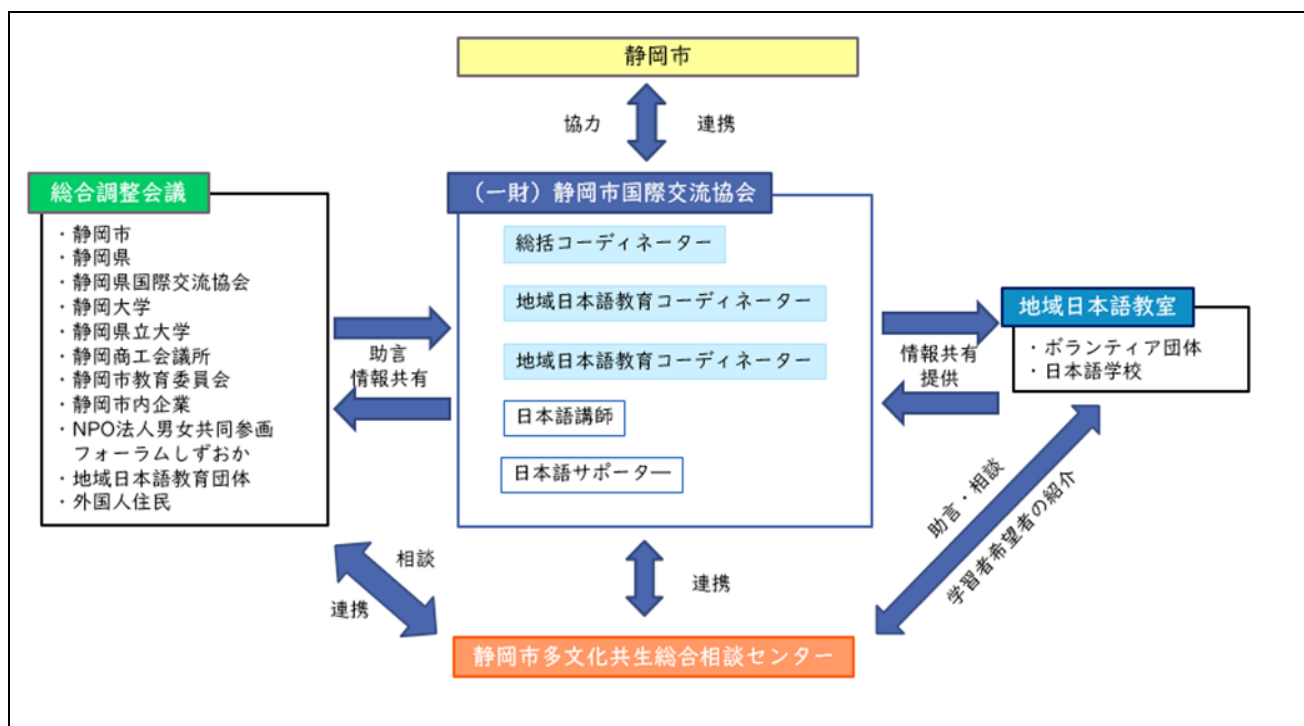
これまで、総合調整会議において、前年度の報告と当年度の計画を報告し、委員からの評価を得たり、総合調整会議で意見された課題やそれに対する対応案は、翌年の事業計画に取り入れ、事業内容の充実、改善を図ってきた。今年度も引き続き、総合調整会議で本事業の評価を得るとともに、静岡市多文化共生総合相談センターで受けた相談の分析結果を共有し、地域の現状や課題に対して、本事業の実施状況や効果、ミスマッチが無いかなどについて意見を問う。また、静岡市日本語教育基本方針を踏まえて、静岡市と当協会为本事業の評価を行い、来年度以降の方針を検討する。

⑤令和5年度の主な取組内容

- ① 総合調整会議の設置、開催
- ② コーディネーターの配置及び配置に向けた取組
 - ②-1 総括コーディネーターの配置
 - ②-2 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組
- ⑥ 日本語教育人材に対する研修
- ⑦ 地域日本語教育の実施
- ⑨ 地域日本語教育の効果を高めるための取組
- ⑩ 地域日本語教育に付随して行われる取組
- ⑪ 日本語教育に関する広報活動
- ⑫ ICT を活用した教育・支援
- ⑬ 教材作成

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	中島 一彦	一般財団法人静岡市国際交流協会	専務理事兼事務局長	事業全体の総括
2	宮本 記世乃	一般財団法人静岡市国際交流協会	主幹、地域日本語教育コーディネーター	運営補助、連絡調整
3	多々良 真衣	一般財団法人静岡市国際交流協会	主事、総括コーディネーター	企画、運営
4	増田 奈美	一般財団法人静岡市国際交流協会	地域日本語教育コーディネーター	運営、連絡調整
5	村田 圭花	一般財団法人静岡市国際交流協会	地域日本語教育コーディネーター	運営、連絡調整
6	萩原 さほり	静岡市国際交流課	参与兼課長	静岡市からの情報共有
7	山梨 和美	静岡市国際交流課多文化共生推進係	参事兼課長補佐	静岡市からの情報共有
8	山内 達仁	静岡市国際交流課多文化共生推進係	主査	静岡市からの情報共有

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

1. 本事業を静岡市における地域日本語教育の総合的な取組と位置づけ、効果的な事業推進を図るため、総合調整会議及び各事業について、静岡市国際交流課と連携し実施した。
2. 「静岡県地域日本語教育推進方針」との整合性を図るため、静岡県と静岡県国際交流協会担当者を総合調整会議委員とし、課題と情報の共有や意見交換を行った。

3. 日本語学習支援に取り組むボランティア団体の横連携を強化するとともに、幅広い在留資格の生活者に対応したオール静岡による日本語学習支援に対応するため、大学や経済団体を総合調整会議委員とし、課題と情報の共有や意見交換を行い、事業の広報等の協力を得た。
4. 学校教育に係る児童・生徒対象の日本語教育推進事業との一貫性を図るため、静岡市教育委員会を総合調整会議委員とし、課題と情報の共有や意見交換を行った。児童生徒対象事業に対する助言や広報等の協力を図った。

4 令和5年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	高畑 幸	静岡県立大学 国際関係学部 一般財団法人静岡市国際交流協会 静岡市多文化共生協議会	教授 理事 委員	在住外国人問題や地域社会における多文化共生に関する専門的な見解、助言
2	案野 香子	静岡大学 国際連携推進機構	教授	日本語教育や多文化共生に関する専門的な見解、助言
3	古橋 哉子	(公財) 静岡県国際交流協会	主幹	静岡県における外国人の住民に関する情報と見解
4	古橋 弘幸	静岡県くらし・環境部県民生活局多文化共生課	多文化共生班長	静岡県からの情報共有
5	小澤 俊文	静岡商工会議所 産業振興課	主幹	経済界、企業の立場からの情報と見解
6	山内 達仁	静岡市国際交流課多文化共生推進係	主査	静岡市からの情報共有
7	玉井 晶	静岡市教育委員会 学校教育課	指導主事	児童・生徒の日本語教育に関する情報と見解
8	鵜飼 俊江	清水日本語交流の会(地域日本語教育団体)	会長	地域で活動する日本語教室の課題、意見
9	名倉 培之	グローバルにほんご(地域日本語教育団体)	代表	地域で活動する日本語教室の課題、意見
10	マハラジャン・ディリプ	会社員 ふじのくに留学生親善大使		外国人住民からの情報、意見

11	田京 一也	(株) ベルキャリアール		外国人を雇用する企業からの課題、意見
12	川村 美智	NPO 法人男女共同参画フォーラムしずおか		女性、児童生徒の日本語教育に関する情報と見解
②実施結果				
実施回数		2回		
実施スケジュール		第1回：令和5年8月24日（木）15:00～16:30 第2回：令和6年3月4日（月）15:00～16:30		
主な検討項目		第1回 （1）令和4年度事業報告及び令和5年度事業進捗状況について （2）議論 ～静岡市の日本語教育の現状と令和6年度以降の方向性について～ 第2回 （1）令和6年度自治体国際化協会多文化共生のまちづくり促進事業（助成）の採択について （事業名：「学齢期を超えて来日した外国にルーツを持つ若者のための高校進学等支援事業」について） （2）議題 企業における日本語教育の現状と課題～地域日本語教育の現場からの視点～		
（取組②－1）総括コーディネーターの配置				
・一般財団法人静岡市国際交流協会職員1名を総括コーディネーターとして配置した。 ・総括コーディネーターは、地域日本語教育の体制整備のため、以下の業務を行った。				
①総合調整会議の企画・運営 ②地域日本語教育実施団体との連絡調整、教室訪問、実地調査 ③地域日本語教育コーディネーターとの連絡調整 ④日本語教育人材の養成やスキルアップのための研修の企画・運営 ⑤日本教室の企画 ⑥教材作成 ⑦Web サイトの構築				
（取組②－2）地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組				
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】				
地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【(○)】				
・地域日本語教育コーディネーターとして3名配置した。 ・地域日本語教育コーディネーターは、総括コーディネーターと連携し、以下の業務を行った。				
①日本語教室の運営 ②日本語教室のカリキュラム作成 ③日本語学習者との面談、ニーズ調査 ④SAME 日本語教室で活動する日本語教育人材（日本語サポーターおよび日本語講師）との連絡調整 ⑤日本語学習者との連絡調整 ⑥教材作成				
・地域日本語教育コーディネーター候補者は、地域日本語教育コーディネーターの業務への理解を深めるため、SAME にほんごきょうしつの教室活動の企画やファシリテーターを、地域日本語教育コーディネーターと協力して行った。				
（取組②－3）調査・推進計画策定コーディネーターの配置				
取組なし				

【重点項目】
(取組③) 日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成
取組なし
(取組④) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組
取組なし
(取組⑤) 市区町村への意識啓発のための取組
取組なし
(取組⑥) 日本語教育人材に対する研修
1. SAME 国際塾（外国人コミュニケーションボランティア講座から名称を変更） 【実施日時】 第1回：令和5年9月17日（日）13:30～15:30 第2回：令和5年10月15日（日）13:30～15:30 第3回：令和5年11月19日（日）13:30～15:30 第4回：令和5年12月17日（日）13:30～15:30 第5回：令和6年1月21日（日）13:30～16:00 第6回：令和6年2月18日（日）13:30～16:00 【実施回数】 全6回（1回 2時間、1月21日、2月18日のみ2.5時間） 【会場】 スモールワールド、静岡市歴史博物館講義室、静岡労政会館、静岡マシドイスラム文化センター、静岡市南部生涯学習センター料理実習室 【講師】 花沢ウライヤ氏、照屋アンヘラ氏、清水日本語交流の会 鶴飼俊江氏、（一社）多文化社会専門職機構 菊池哲佳氏、静岡ムスリム協会 アサディみわ氏、（公財）箕面市国際交流協会 岩城あすか氏、金福姫氏 【参加者】 22名 【実施内容】 多文化共生や外国人と協働することに理解があり、日本語教育分野のみならず様々な場面で活動し、地域で活躍できるボランティアの発掘を目指し、やさしい日本語や防災などの講座を通じて、日本語教育以外の分野でも常に繋がることのできるネットワークの構築、強化を図るための講座を実施した。各回の内容は以下のとおり。 第1回：カフェトーク（モロッコとペルーの文化的紹介） 第2回：やさしい日本語講座 第3回：多文化×防災 ～日頃の防災・減災の備えについて～ 第4回：多文化×宗教 ～静岡マシド訪問～ 第5回：外国人も参加できるまちづくりについて レクチャーとワークショップ 第6回：料理体験（韓国のおやつ作り、文化紹介）

2. 日本語サポータースキルアップ研修

【実施日時】 第1回：4月16日（日） 10：00～12：00

第2回：6月25日（日） 13：30～15：30

第3回：9月10日（日） 13：30～15：30

【実施回数】 全3回（1回 2時間）

【会 場】 ふしみや貸会議室（静岡市葵区呉服町）

【講 師】 地域日本語教育コーディネーター 増田 奈美

【参 加 者】 44人

【実施内容】 日本語サポーターが継続的、安定的に活動に参加できるよう、定期的な知識の更新や確認、不安の解消を目的とし、当協会オリジナルテキスト『はなそう にほんご しぞーかで』の使い方を、参加者同士が日本語サポーター役と学習者役を体験しながら学べるよう工夫し実施した。

各回の内容は以下のとおり。

第1回：日本語サポーターオリエンテーション、やさしい日本語講座

第2回：『はなそう にほんご しぞーかで』使い方①、意見交換

第3回：『はなそう にほんご しぞーかで』使い方②

3. 日本語ボランティア情報交換会

【開催時期】 6月25日（日） 13：30～15：30

【実施回数】 1回（1回 2時間）

【会 場】 ふしみや貸会議室（静岡市葵区呉服町）

【講 師】 地域日本語教育コーディネーター 増田 奈美

【参 加 者】 17名（取組⑥-2. 日本語サポータースキルアップ研修第2回の参加者）

【内 容】 市内で活動する日本語ボランティア同士の横の連携を図るため、取組⑥-2「日本語サポータースキルアップ研修」の第2回の中で情報交換会を実施した。各日本語ボランティアが持つ、活動に役立つ知識を交換したり、活動における悩みや課題を共有したり、それに対する対応策について検討する機会を創出した。

（取組⑦）地域日本語教育の実施

実施するものに○ 【 】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

【○】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所見込数	2か所	受講者数 (実人数)	75人
活動1	【名称】「既設」SAME にほんごきょうしつ（日曜日） 【目標】 自分自身を表現するテーマについて会話をする際の話のレパートリーを獲得し、自分のことを相手に伝える日本語力を身につける。日本語サポーターとの対話をとおして、日本語での対応能力を身につける。また、年に3回程度、特別活動として、静岡市に協力を依頼し、生活に役立つ知識を得るとともに、体験活動の機会を設ける。 日本語教室の参加者にとって、日本語教室は社会参画の入り口であり、サードプレイスと		

	しての機能も兼ね備えているため、参加者同士のコミュニケーションがより活発に図られるよう、協働、共創の機会を多く設ける。 【実施回数】29回（1回1.5時間） 【受講者数】47人 【実施場所】ふしみや貸会議室（静岡市葵区呉服町）、静岡市中央体育館、清水有度生涯学習交流館調理室 【受講者募集方法】当協会Webサイト、Facebookでの広報、チラシ、市内店舗等 【内容】 標準的なカリキュラム案等を参考に、令和2、3年度に作成したオリジナルテキストを活用し、5月～8月までは、日本語サポーターと学習者3～4名のグループになり、学習した。9月～2月までは、日本語講師が少人数のグループを担当し、学習をすすめた。学習進捗やカリキュラムは地域日本語教育コーディネーターが管理し、グループを作成した。1ヶ月に1回は、会話の日とし、一つのテーマに沿って、日本語サポーターと学習者が自由に会話をする日を作り、より多くの日本語語彙や表現を学び、対話する場を提供した。最終回では、「わたしのはなし発表会」を実施、1年間の学習の成果をアウトプットする機会を作った。 また、SAMEにほんごきょうしつの一環として、静岡市に協力を仰ぎ、「まるちゃんの静岡音頭講習会」、「119番のかけ方」を実施した。講師の方の指示を聞きながら踊りの練習をし、動画を撮影しその後コンテストへ応募したり、実際に消防局の指令課へ119番をかける体験をした。当協会主催の多文化共生のイベント「静岡わいわいワールドフェア」にも参加し、市民の方と交流をした。 なお、学齢期を過ぎて来日した子どもたちが日本語を学ぶ場を必要としているというニーズに対応するため、SAMEにほんごきょうしつへ受け入れ、読み書きや挨拶なども含めて学習をサポートした。 会話テーマ：街中の文字探し、七夕、買い物、カルチャーショック、年賀状 【開始した月】5月 【講師、日本語サポーター】33人（うち、日本語教師4人） 【関係機関との連携】 【機関名】静岡市国際交流課、広報課、消防局警防部指令課、清水区赤十字奉仕団清水分団 【連携内容】連絡調整、出前講座の実施、施設利用許可、講師派遣 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
活動2	【名称】「既設」SAMEにほんごきょうしつ（月曜日） 【目標】自分自身を表現するテーマについて会話をする際の話のレパートリーを獲得し、自分のことを相手に伝える日本語力を身につける。日本語サポーターとの対話をとおし、日本語での対応能力を身につける。また、年に3回程度、特別活動として、静岡市に協力を依頼し、生活に役立つ知識を得るとともに、体験活動の機会を設ける。 日本語教室の参加者にとって、日本語教室は社会参画の入り口であり、サードプレイスとしての機能も兼ね備えているため、参加者同士のコミュニケーションがより活発に図られ

	るよう、協働、共創の機会を多く設ける。 【実施回数】29回（1回1.5時間）大雨の予報のため1回休講とした。 【受講者数】28人 【実施場所】ふしみや貸会議室（静岡市葵区呉服町） 【受講者募集方法】当協会 Web サイト、Facebook での広報、チラシ、市内店舗等 【内容】 標準的なカリキュラム案等を参考に、令和2、3年度に作成したオリジナルテキストを活用し、5月～8月までは、日本語サポーターと学習者3～4名のグループになり、学習した。9月～2月までは、日本語講師が少人数のグループを担当し、学習をすすめた。学習進捗やカリキュラムは地域日本語教育コーディネーターが管理し、グループを作成した。1ヶ月に1回は、会話の日とし、一つのテーマに沿って、日本語サポーターと学習者が自由に会話をする日を作り、より多くの日本語語彙や表現を学び対話する場を提供した。最終回では、「わたしのはなし発表会」を実施、1年間の学習の成果をアウトプットする機会を作った。 また、SAME にほんごきょうしつの一環として、静岡市に協力を仰ぎ、「119番のかけ方」では、実際に消防局の指令課へ119番をかける体験をした。他に、市内の劇団に協力を仰ぎ、身体を動かして、ことばや気持ちを相手に伝える活動として「表現ワークショップ」も実施した。 会話テーマ：街中の文字探し、七夕、お祭り、買い物、イベント、料理、年賀状 【開始した月】5月 【講師、日本語サポーター】10人（うち、日本語教師3人） 【関係機関との連携】 【機関名】静岡市国際交流課、消防局警防部指令課、人宿町やどりぎ座 【連携内容】連絡調整、出前講座の実施、施設利用許可、講師派遣 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
（取組⑧～⑮）その他の取組	
（取組⑨）地域日本語教育の効果を高めるための取組 学習者に対するアンケート調査・面談の実施 SAME にほんごきょうしつの学習者に対して、講座開始前や開始時に日本語能力やニーズを把握するための面談、学期の半ばでは、学習状況を把握するための面談、終了時にはアンケートを実施し、日本語教育の効果を計りながら、学習が継続できるよう、結果を都度、繁栄させて事業に取り組んだ。 【開催時期】令和5年5月～6年2月 【アンケート実施回数】計4回（2回×2教室） （取組⑩）地域日本語教育に付随して行われる取組 ⑩-1 防災セミナーの実施 市内在住外国人を対象に、「防災セミナー」を実施し、包装食袋を使った炊き出し体験をした。	

【名称】防災セミナー

【日時】令和5年10月22日（日）10:00～12:00

【会場】有度生涯学習交流館（静岡市清水区草薙一里山3-1）

【参加者数】17人

【内容】外国人住民への防災・減災の意識を高めるため、清水区赤十字奉仕団清水分団に協力いただき、災害時に活用できる包装食袋を使用した炊き出し体験を行った。災害時には、何が使えて何が使えないのかなどの状況を自ら考えてもらいながら、包装食袋を使用し、白米とおでん、だし卵をグループで協力して作り、共に味わった。包装食袋はどこで買えるのか、災害時はどのくらい水が使えないのかなどの質問があり、災害への心構えを養うことができた。

⑩-2 フィリピン人のための年金セミナーの実施

外国人住民が日本で生活する上で必要な知識や対応について学べるよう、静岡市で暮らす外国人住民数として3番目に多いフィリピン人住民に特化した年金セミナーを実施した。

【開催日】令和6年1月14日（日）

【講師】社会保険労務士 丹治和人氏

【参加者数】28人

【実施場所】アイセル21（静岡市葵区東草深町3-18）

【内容】

社会保険労務士による年金制度の解説や個別相談を実施した。フィリピン語資料や通訳も交えて開催し、参加者からは多くの質問があがった。また、SAME にほんごきょうしつの学習者も参加し、参加者の将来の生活への不安解消に寄与することができた。

（取組⑪）日本語教育に関する広報活動

日本語学習 Web サイト『しずおかしのにほんごきょうしつ』の情報更新

令和4年度に構築した、日本語学習 Web サイト『しずおかしのにほんごきょうしつ』に掲載する日本語教室等の情報の更新を行い、令和6年度からの一般財団法人静岡市国際交流協会の Web サイトとの連動を図るための準備を行った。

【内容】

外国人住民向けの情報として、日本語学習希望者が自ら、日本語教室を検索できる機能や、日本語学習に役立つ他の Web サイトや、文化庁の「つながるひろがる にほんごでのくらし」等の教材を紹介したり、地域の日本語教室で活動する日本人向けに、活動に役立つ研修の情報や教材を紹介したりするための Web サイトとして活用してもらうべく準備をした。また、様々な事業の広報は、一般財団法人静岡市国際交流協会の Web サイトや SNS 行い、認知度を高めた。

（取組⑫）ICT を活用した教育・支援

令和4年度に作成した『はなそうにほんごしぞーか』の動画教材を学習者に紹介して自宅学習を促し、教室以外でも日本語を聞く機会を創出した。市内の他団体にも動画教材を紹介し活用してもらった。また、SAME にほんごきょうしつでは、月に1度の会話活動の日に、その時のテーマに合わせて、文化庁の「つなが

るひろがる にほんごでのくらし」の該当動画を視聴し、それをヒントに会話活動を展開したり、自宅学習用の教材としても紹介したりするなど、大いに活用した。

(取組⑬) 教材作成

令和4年度に作成した『はなそう にほんご しぞーかで』の動画教材を容易に視聴できるよう、本誌にQRコードを追加するなど、動画教材との連動のための編集をし、重版した。

【名称】『はなそう にほんご しぞーかで』重版

【内容】『はなそう にほんご しぞーかで』の動画教材を視聴するためのQRコードと、日本語のCan-doリスト12ユニット分を追加し、第2版として重版した。

2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育

取組なし

(取組②) 取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

取組なし

5 主要な取組の実施状況

令和5年4月	日本語サポータースキルアップ研修開始
5月	SAME にほんごきょうしつ開始
6月	日本語サポータースキルアップ研修実施、日本語ボランティア情報交換会実施
7月	『はなそう にほんご しぞーかで』本冊重版作業開始
8月	第一回総合調整会議実施
9月	日本語サポータースキルアップ研修終了、SAME 国際塾開始
10月	防災セミナー実施
11月	SAME にほんごきょうしつ、静岡わいわいワールドフェアに参加
12月	『はなそう にほんご しぞーかで』本冊第二版発行
令和6年1月	119番のかけ方講座実施、フィリピン人のための年金セミナー実施
2月	SAME にほんごきょうしつ終了、SAME 国際塾終了
3月	第二回総合調整会議実施、まるちゃんの静岡音頭コンテスト2023表彰式出席、事業終了

6 評価と検証

1. 令和5年度の計画の評価と検証方法

【令和5年度の目標】(再掲)

- ・地域日本語教育コーディネーターの配置

日本語教育の量、質の確保のため、地域日本語教育コーディネーターの増員が急がれる。人材の発掘、養成を行う。候補者を文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」に推薦する。

- ・総合調整会議の実施

総合調整会議では、本事業終了後も持続可能な体制を保持するため、地域とどのように共生するか、巻き込むかについて議論する。

- ・地域日本語教育人材の養成、日本語サポーターのスキルアップ

地域日本語教育人材の不足を改善するため、安定的な確保を目指し、研修を実施する。新規人材の養成と現在活動している人材が継続的に活動できるよう知識の向上を図る。特に大学生や高校生の参加を促すため、市内の大学や高校に訪問し、ネットワークを形成し、新たな層の人材確保に努める。

- ・持続可能な日本語教室の体制づくり

今後、長期に渡って、持続可能な体制を作るため、現在の日本語教室の運営体制を確立する。これまで積み上げてきた、オリジナル教材を使ったカリキュラムを基盤に、地域の日本人と学習者が協働でき、誰もが継続して参加しやすい日本語教室の型を作る。最終年度である令和6年度は、この教室の普及を目指す。

- ・学齢期以降に来日する子どものための日本語教室

令和4年度、静岡市多文化共生総合相談センターでの相談対応で、明らかになった、学齢期を超えて来日する子どもたちが日本語を勉強できる場がほしいという新たなニーズに対応するため、日本語教室を新設する。この層に対する日本語教育は、丁寧できめ細やかな対応が必要になるため、これまで3年間に培ってきたネットワークをもとに関係機関と連携し、学習者に必要な情報の提供や対応を行い、地域の将来のリスクヘッジをする。

- ・教材の普及、活用

令和2、3年度に作成した『はなそう にほんご しぞーかで』の冊子と、令和4年度に作成予定の動画教材を連動させるため、冊子の再編集と増刷を行う。日本語教室で動画教材を効果的に活用する。また、地域への広報を行い、「生活者としての外国人」のための日本語教育の浸透を図る。

- ・日本語教育に関する広報活動

令和4年度に構築した、日本語学習 Web サイト『しずおかしのにほんごきょうしつ』をとおして、より多くの方に情報が届き、誰もが容易に日本語学習に関する情報を得られるよう、Web サイトの運営、情報の更新をするとともに、より多くの人に情報提供ができるよう、広報を行う。

- ・事業評価・改善

これまで、総合調整会議において、前年度の報告と当年度の計画を報告し、委員からの評価を得たり、総合調整会議で意見された課題やそれに対する対応案は、翌年の事業計画に取り入れ、事業内容の充実、改善を図ってきた。今年度も引き続き、総合調整会議で本事業の評価を得るとともに、静岡市多文化共生総合相談センターで受けた相談の分析結果を共有し、地域の現状や課題に対して、本事業の実施状況や効果、ミスマッチが無いかなどについて意見を問う。また、静岡市日本語教育基本方針を踏まえて、静岡市と当協会では本事業の評価を行い、来年度以降の方針を検討する。

【令和5年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

本事業では、地域の日本語教育体制の構築、日本語教育人材の確保、資質、能力の向上、及び外国人住民のための日本語教育のため、以下の取組を主たる取組として実施した。

- ・日本語学習支援ネットワークの構築（総合調整会議、日本語ボランティア情報交換会の実施）

- ・地域日本語教育コーディネーターの増員（地域日本語教育コーディネーターの配置）

- ・日本語教育人材の養成（SAME 国際塾、日本語サポータースキルアップ研修）

- ・地域日本語教育団体との連携（SAME 国際塾、日本語サポータースキルアップ研修、日本語ボランティア情

報交換会の実施、日本語学習 Web サイトの運営・更新)

・「生活者としての外国人」のための日本語教育の実施、浸透（各種日本語教室の実施）

これらの指標として以下の点から評価を行った。

※KGI：Key Goal Indicator（重要目標達成指標）

KPI：Key Performance Indicator（重要業績評価指標）

【指標 1：定量評価目標】

KGI：地域日本語教育の体制づくりが進み、持続可能な体制が構築される。

KPI：総合調整会議実施回数

○目標値 2 回（前年度実績 2 回）

○実績値 2 回

KPI：本事業で連携する団体や企業等の数

○目標値 20 団体（前年 17 団体）

○実績値 18 団体

【指標 2：定量評価目標】

KGI：日本語教育人材が養成され、地域の日本語教育の量と質を確保される。

KPI：地域日本語教育コーディネーター人数

○目標値 3 人（前年度実績 2 人）

○実績値 3 人

KPI：SAME 国際塾、日本語サポータースキルアップ研修、及び日本語ボランティア情報交換会の参加人数

○目標値 80 人（前年 計 50 人）

○実績値 68 人

（内訳）SAME 国際塾 参加者：22 人

日本語サポータースキルアップ研修 参加者：44 人

日本語ボランティア情報交換会 参加者：17 人は日本語サポータースキルアップ研修に含む。

【指標 3：定量評価目標】

KGI：多様なニーズに対応した日本語学習機会を安定して提供できる。

KPI：当協会日本語教室実施回数、実施個所

○目標値 80 回／2 か所（前年 66 回／2 か所）

○実績値 58 回／2 か所

（内訳）SAME にほんごきょうしつ（日曜日）29 回、（月曜日）29 回

KPI：地域の日本語教室実施回数

○目標値 100 回（前年 測定無し）

○実績値 103 回

【指標 4：定性評価目標】

KGI：日本語学習者の日本語能力が向上する。

KPI：各種日本語教室学習者の満足度

○目標値 100%（前年 92%）

○実績値 100%

KPI：各種日本語教室学習者自身が立てた目標の達成率

○目標値 80%（前年 測定無し）

○実績値 100%（できた、普通の合計）

【指標 5：定性評価目標】

- ・日本語教育環境を強化するための連携体制を拡大、発展させることができた。
- ・持続可能な日本語教室実施体制を構築した。
- ・「生活者としての外国人」を対象とした日本語教育が市内に浸透した。
- ・学習者は日本語教室での日本語サポーターとの会話を通じて、日本で生活する中で求められる基礎的なコミュニケーションを身につけることができた。
- ・学習者が自分自身のことを相手に伝える日本語力を獲得することができた。
- ・日本語サポーターが外国人と向き合う中で多文化共生意識やコミュニケーション能力を獲得する機会を提供した。
- ・日本語教室が参加者にとってのサードプレイスや仲間づくりをする場となり、社会参画意識を醸成することができた。

【検証方法】

○指標 1～3 については、事務局において、取組毎に人数、回数、箇所数を集計、把握した。

○指標 4, 5 については、事務局における自己評価、日本語教室学習者及び日本語サポーターへのアンケート調査や面談、インタビューを実施し、把握した。

○以上の指標を総合調整会議で報告した。

【その他】

なお、令和 7 年度までに、地域日本語教育コーディネーターを 5 名配置する。令和 5 年度時点では、3 名配置した。

2. その他、令和 5 年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組 ⑥】日本語教育人材に対する研修

（定量評価）当協会人材登録制度（ことばと文化のサポーター登録制度）への新規登録者数

今年度目標 30 人 (前年度実績: 25 人)

今年度実績 22 人

(検証方法) 事務局による人数集計

【取組 ⑩】防災セミナー、フィリピン人のための年金セミナー

(定量評価) 外国人参加者数

今年度目標 40 人 (前年度実績: 25 人 (予定))

今年度実績 47 人

(検証方法) 事務局による人数集計

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望
(1) 検証を踏まえた課題 ・地域日本語教育コーディネーターの増員 様々なニーズに対応するため、地域日本語教育コーディネーターの増員、日本語教室の増設を目指したが、広い視野を持ち、様々な課題に対応できる素質を持つ、新たな地域日本語教育コーディネーターの配置には至らなかった。 ・人材育成と活動参加率 地域の日本語教室で活躍する人材を養成するため、研修および情報交換会を実施した。また、当協会の日本語サポーターの中から希望する人に、活動の企画やファシリテーターなどを行ってもらい、教室活動への積極的な参加や日本語サポーター同士の繋がりにより、活動参加率が上がることを期待したが、新規参加者は増えたものの、教室1回あたりの参加人数は不安定なままであった。 (2) 今後の展望 ・日本語学習のニーズが高まっており、地域における日本語教育の量と質を確保するため、地域日本語教育コーディネーターの増員が必要である。今年度は増員できなかったが、来年度に活動してもらう候補者1名の目途がついた。今後も継続して、人材の発掘、養成に努め、文化庁地域日本語教育コーディネーター研修等を活用しながら、地域日本語教育コーディネーターを養成し、さらなる日本語学習機会の拡充に繋げたい。 ・日本語学習を希望する学習者が増加し、それに伴う多様なニーズに応えるため、持続可能な教室の実施方法や運営方法について検討していく必要がある。昨年度からの継続で、学習支援者としての日本語サポーターが参加する日本語教室を実施してきたが、日本語サポーターは、ボランティアであるがゆえ、活動日を運営側が指定することが困難であり、活動日に必要な人数を確保することが難しくなった。それゆえ、年度の途中ではあったが、9月より新たに日本語教師を採用し、初期日本語学習は日本語講師が行い、日本語サポーターには、月に1度の会話活動時の会話の練習相手になってもらうなどの役割分担をし、持続可能な教室のあり方を検討し実行した。これにより学習支援者の負担を軽減するとともに、学習者により良い学習を提供できるよう努めたい。今後は、日本語学習に特化した学習支援者ではなく、多文化共生や外国人と協働することに理解があり、様々な場面で活動できるような共に学び支えあえる仲間としての人材を発掘する仕組みづくりを検討していきたい。
2. その他、課題と困難な状況への対応方法等
(1) 課題と困難な状況への対応方法 ・学齢期を超えた子どもたちの学習支援のために 前年度、当協会が静岡市から委託している、静岡市多文化共生総合相談センターにて、学齢期を過ぎて来日する15歳以上の子どもの日本語学習についての相談が急激に増加した。今年度は、それを受けて、「10代のための SAME にほんごきょうしつ」の実施を計画していたが、子どもたちの来日時期がまちまちで、希望者を集めて一斉に開始する教室の実施は現状とはそぐわないと判断し、既設の SAME にほんごきょうしつを紹介し、参加を促した。しかし、SAME にほんごきょうしつに通う一般の方（就労者や家族滞在等）への対応とは異なり、教室参加前に、日本の高校進学についての説明や、将来の目的、今後の進路等について、親

も含めて面談を行うなど、3年間に培ってきたネットワークをもとに関係機関と連携し、学習者に必要な情報の提供や対応を行った。今後も増加すると思われる子どもたちへの丁寧で、きめ細やかな相談対応や学習支援を、関係機関と連携しながら行っていきたい。

・学習者の継続率向上のために

学習者の属性や学習ニーズが多様なことと、学習支援者の不足により、学習者に合った教室の紹介や適切な学習進度によるグループ分けなどが難しかった。前年度においても教室申込時のヒアリングや教室実施期間中のインタビューなどを実施していたが、今年度は、教室申し込み時のヒアリングに時間をかけ、適切な教室を紹介したり、学習途中の学習者の不安などを聞いたり、SNSでの連絡を丁寧にするることにより、学習者に合った学習環境を提供できるようになった。今後もよりよい学習環境を提供できるように柔軟に対応していきたい。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
⑦-1	SAME にほんごきょうしつ ～まるちゃんの静岡音頭講習会～
	

⑦-1

SAME にほんごきょうしつ ～会話の日の活動の様子～



⑦-2

～SAME にほんごきょうしつ ～119 番のかけ方～





【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
⑬	オリジナル教材『はなそう にほんご しぞーかで』第2版	○